

# トーク&トーク

横尾 英子さん

■神戸医療福祉大教授



よこお・ひでこ  
1942年、京都府宇治市生まれ。神戸女子大などで高齢者介護を指導。神戸市でホームヘルパー養成研修所を設立し、認知症対応型グループホームなども運営している。

オーストラリアには「老いしていくが、お年寄りは、過ることは楽しむことであり耐去にできていたことが次第にえることではない」という言葉がある。老化は誰もがたどる人生の「こまだ。少しでも楽しく生きてもらえるために私たちが果たす役割がある。悲しいことに、福祉の現場でお年寄りを子ども扱いする人がいるが、尊厳を傷つける行いだ。子どもは今から成長

## 高齢者の「こころ」を理解する

- ア 食事のときは「あーんして」と声をかける
- イ 「〜しますよ」という声のかけ方をする
- ウ 同じ話を繰り返されたら、「もう聞いた」と注意する
- エ 会話は、ほめ言葉を使う

- ①福祉の現場でお年寄りを子ども扱いする「こととは、どういう行いだと横尾さんは言っていますか。
- ②お年寄りへの対応について、正しいものに○印を、まちがっているものに×印を付けましょう。

## ほめ言葉をたくさん知ろう

「散歩に行きますか」「お風呂に入りますか」と、返事が選べる疑問文に言い換えるだけで、受ける印象が全然違う。それに笑顔が加わったら、どれだけ素晴らしいか。

同じ話を繰り返すお年寄りは多いが、いつも初めて聞くような顔をしないといいけない。私も最初は頬がカチカチになるくらい作り笑顔をしたものだが、いつの間にか自然に笑えるようになり、疲れなくなった。笑顔を見せれば相手の不安を取り除ける。

お年寄りとお話をする場合は、ほめ言葉をたくさん知っておくと会話が弾む。「きれいな花が挿してありますね」

とか「洋服の色がきれい」とか。何かをほめることで親近感を持ってもらえる。

お年寄りと接するときは、心を通して耳を傾ける。次に、私たちの価値観で批判や評価をせず、ありのままを受け入れる。そして「あなたの言っていることはよく分かる」というメッセージを伝える。つまり傾聴、受容、共感の三つが大切だ。相手の価値観を大切に、大きな心で受け止めれば、お年寄りは心を開いてくれる。

（6月10日、篠山市であった傾聴ボランティア養成講座で）

（まとめ・井原尚基）

- ③お年寄りと接するとき大切な三つの「こととは何ですか。
- ④この記事を読んで気づいた「ことや、感想を書きましよう。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

神戸新聞NIEワークシート  
 小学高学年～高校  
 道徳、学活(HR)、総合(福祉)、朝NIE

学校名( ) 年 名前( )